

安全データシート (SDS)

1 製品及び会社情報 製品の特定

製品の名称 JetSwan
製品分類 エアゾール 光学式非接触測定用前処理剤

会社情報

会社名 株式会社フジオカ
住所 大阪府東大阪市高井田3丁目8-36
電話番号 06-6618-6181
改訂日 2021年5月24日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性・引火性エアゾール 引火性液体	区分1 区分2
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性	分類できない※ 分類できない※ 分類できない※ 分類できない※ 分類できない※

※通常の使用方法では管理濃度以下となるため、分類できないとした。

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
・極めて可燃性・引火性の高いエアゾール
・高压容器:熱すると破裂するおそれ
・引火性の高い液体および蒸気
・飲み込むと有害のおそれ
・皮膚に接触すると有害のおそれ
・直接目に入ると有害のおそれ

注意書き

【予防策】	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 スプレーの吸入を避けること。 漏洩ガス火災の場合には:漏洩が完全に停止されない限り消火しないこと 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。 火花を発生しない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 加压容器:使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 環境への放出を避けること。
【対応】	気分が悪い時は、医師に連絡すること。 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 皮膚(または髪)に付着した場合:直ぐに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。 飲み込んだ場合:直ぐに医師に連絡すること。 無理に吐かせないこと。 火災の場合には、消火に有効な消火剤を使用すること。 漏出物を回収すること。
【保管】	直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 部外者が立ち入らない場所に保管すること。 施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物
含有成分及び含有量

成分名・化学名	含有率vol%	CAS No	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.	毒劇法
イソプロピルアルコール	5~20	67-63-0	2-207	494	非該当	非該当
石炭石粉末(炭酸カルシウム)		1317-65-3(471-34-1)	1-122	対象外	非該当	非該当
液化石油ガス	80~95					
n-ブタン		106-97-8	(2)-4	該当	非該当	非該当
i-ブタン		75-28-5		該当	非該当	非該当
プロパン		74-98-6	(2)-3	非該当	非該当	非該当

国連分類 国連番号:1950 クラス2.1(引火性エアゾール)

4. 応急措置

吸入した場合 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師を呼ぶこと。

皮膚に付着した場合 皮膚を速やかに洗浄すること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めると。

目に入った場合 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合 速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

特有の危険有害性 極めて引火性/可燃性の高いガス。
火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。

消火方法 引火性の高い液体及び蒸気。
漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。
消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。
周辺設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
漏洩部や安全装置に直接水をかけてはいけない。凍るおそれがある。

消火剤 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を目的とした水の使用は、危険性を増すので絶対に行わないでください。消火を行う場合には、専用の消火剤や消火設備を用いてください。
ABCまたはBC型粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂など。

6. 漏出時の措置

可燃性ガス及び引火性液体が噴出するので、火源を近付けないように注意する。漏れ出した場所の周辺にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意 火気厳禁
炎、火花、高温体との接触、その他点火源となる恐れのある機械などの使用禁止。取り扱い、換気の良い場所で行い、保護手袋、保護眼鏡、保護マスクを着用すること。
本来の用途以外に使用しない。

保管上の注意 温度が40℃以上となる所に置かないこと。
水周りに置かないこと
幼児の手の届かないところに保管すること。
容器は直射日光や火気を避けること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度と許容濃度

	ブタン	プロパン	イソプロピルアルコール
管理濃度	未設定	未設定	200ppm
日本産業衛生学会	500ppm	未設定	400ppm
ACGIH (TLV-TWA)	800ppm	1000ppm	200ppm

設備対策 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
防爆仕様の局所排気を設置する。
洗眼設備を設置する。

保護具 呼吸器の保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。
状況に応じて、送気マスク、自給式空気呼吸器を着用する。

手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具 適切な眼の保護具を着用すること。
保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 適切な顔面用の保護具を着用すること。
休憩前や製品取扱い直後には手を洗うこと。

衛生対策

9. 物理的及び化学的性質

(製品 : エアゾール)

製品圧力(25°C) : 未定
噴射性状(25°C) : 霧状

(内容物 :)

	イソプロピルアルコール	石炭石粉末(炭酸カルシウム)
外観	透明な液体	白色 微粉体
臭い	アルコール臭	無臭
引火点	14.0°C(タグ式)	不燃物につきデータなし
発火点		
燃焼又は爆発範囲-上限	12.0vol%	不燃物につきデータなし
燃焼又は爆発範囲-下限	2.0vol%	不燃物につきデータなし
沸点	82°C	—
密度	0.785g/cm ³ (20°C)	—
蒸気比重(空気=1)	2.1	—
溶解性(水)	溶解	難溶
粘度	-	

(噴射剤)

	プロパン	ノルマルブタン	イソブタン
融点	-189.7°C	-138°C	-160°C
沸点	-42°C	-0.5°C	-12°C
引火点	-104°C	-60°C	引火性ガス
燃焼範囲 (爆発範囲)	下限2.1% 上限9.5%	下限1.8% 上限8.4%	下限1.8% 上限8.4%
蒸気圧(40°C)	1.275Mpa	1.278Mpa	0.427Mpa
ガス比重(空気=1)	1.6	2.1	2.0
液比重(水=1)	0.5	0.6	0.6
溶解度(20°C)	0.007g / 100ml	0.0061g / 100ml	不溶
発火温度	450°C	287°C	460°C
分子量	44.1	58.1	58.1

10. 安定性及び反応性

安定性:

加熱により発火

炭酸カルシウムは酸と混ぜると二酸化炭素を発生しながら溶解する。

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

危険有害反応可能性:

加熱。高温

避けるべき条件:

強酸化剤。強酸。強アルカリ

混触危険物質:

加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。酸化カルシウム。

危険有害な分解生成物:

11. 有害性情報

有害毒性: 経口

分類できない

急性毒性: 経皮

分類できない

急性毒性: 吸入(ガス)

区分に該当しない

急性毒性: 吸入(蒸気)

区分に該当しない

急性毒性: 吸入(粉塵)

区分に該当しない

急性毒性: 吸入(ミスト)

分類できない

皮膚腐食性/刺激性

区分に該当しない

目に対する損傷/刺激性

刺激がある

生殖細胞変異原性

区分に該当しない

発がん性

区分に該当しない

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

分類できない

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

分類できない

吸引性呼吸器有害性

分類できない

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

区分に該当しない

水生環境慢性有害性

区分に該当しない

13. 廃棄上の注意

廃棄の際は火気のない屋外で噴射音が消えるまでガスを抜いた後、市町村の条例に定められた廃棄方法に従ってください。

中身を密閉式の焼却炉で燃やすと爆発の危険性がありますので絶対に焼却しないでください。

中身を排水口や下水に流したり、山林や河川、海などの場所への不法投棄は絶対にしないでください。

14. 輸送上の注意

国内規制

陸上輸送

消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送

船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送

航空法に定めるところに従う。

国際規制

国連分類

クラス2.1(引火性エアゾール)

国連番号

1950

輸送の特定の安全対策及び条件

運搬に際しては容器を40°C以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称を表示すべき有害物:ブタン、イソプロピルアルコール 名称を通知すべき有害物:ブタン、イソプロピルアルコール
船舶安全法	危険物(高圧ガス)
航空法	危険物(高圧ガス)
高圧ガス保安法	施行令(容器の「注意事項」の表示 エアゾール製品の品質管理)に従う。
消防法	アルコール類 危険等級Ⅱ (噴射剤) 消防法第9条の3: 圧縮アセチレン等の貯蔵等の届出
PRTR法	該当物質なし

16. その他の情報

注釈

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証もなすものではありません。

全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは、保障出来ません。記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

引用文献

- ・原料メーカー発行の安全データシート
- ・JIS Z 7252(2019) GHSに基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7253(2019) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・GHS分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構)
- ・ハザード評価シート(化学物質評価研究機構)
- ・職場のあんぜんサイト安全データシート(厚生労働省)